

京都市立病院 多発性嚢胞腎 専門外来

2015年3月5日（木） 開始

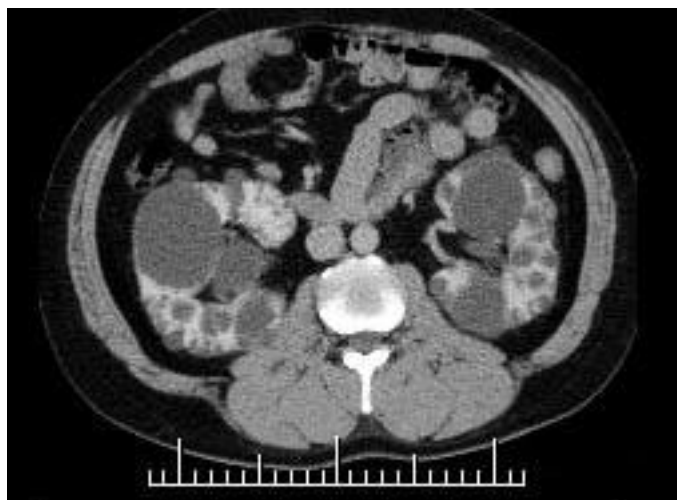
多発性嚢胞腎は遺伝性の腎臓病の中で最も多く、日本人の4000人から8500人に1人が患者さんです。今までは有効な治療法がなく、約半数のかたが60歳前後に慢性腎不全から人工透析になっていました（毎年900人ほどで透析になる原疾患の第5位）。腎臓機能低下だけではなく、合併症の脳動脈瘤からくも膜下出血をきたす例や、心臓弁膜症・嚢胞感染・肝機能障害を起こす例もある疾患です。

そのため専門医による診断が必要と考えられます。平成26年4月よりトルバプタン（サムスカ®）が腎嚢胞拡大抑制と腎機能保護の薬剤として適応となりました。また本年1月より本疾患が難病に指定され、専門医による診断と申請手続きで、患者さんの負担軽減が可能となっています。

京都市立病院腎臓内科では、多発性嚢胞腎の専門外来を毎月第一木曜日に開設することにしました。腎機能・合併症の検査から難病申請および治療に取り組んでまいります。

患者さんの86%に15歳までに腎嚢胞が見つかったとの報告もありますが、30代・40代ではほとんど自覚症状が無いため診断確定が遅くなる傾向があります。20歳以降の病名告知・スクリーニングが推奨されていますので、家族性に腎機能低下が見られる症例など、本疾患が疑われる成人患者さんがおられましたら、地域医療連携室を介して当外来（富田真弓医師宛）にご紹介いただければさいわいです。

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業



難治性腎疾患に関する調査研究のホームページより転載

ご予約・お問い合わせは
京都市立病院
地域医療連携室 まで

電話 : 075 (311) 5311 (代表)

FAX : 075 (311) 9862 (直通)